

東京の河川と水系



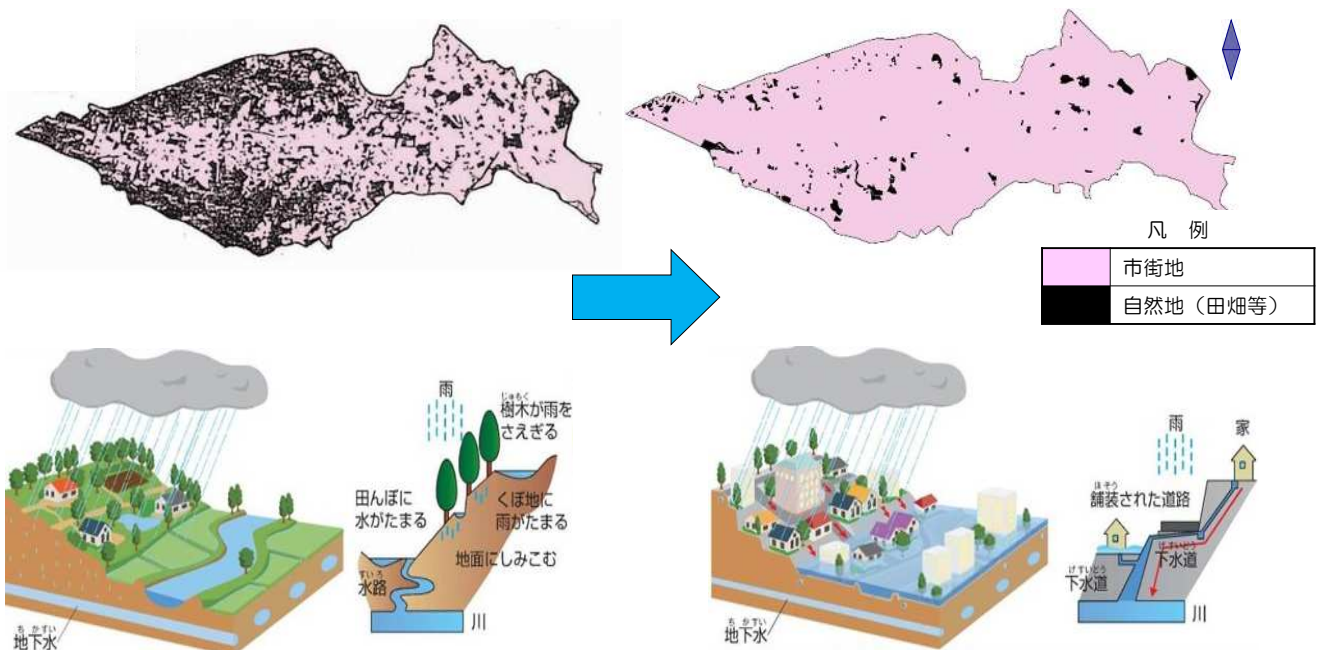
1

神田川の都市化

● 神田川流域市街化変遷図

昭和20年代初期（市街化率約60%）

平成15年（市街化率約97%）



○雨水は地下に浸透

○河川に流れ込む表流水は抑制

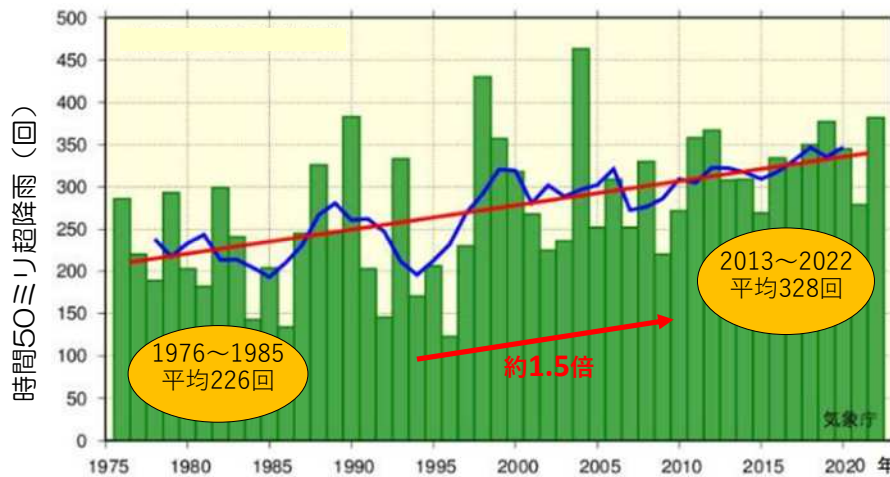
○開発により不浸透域が増大

○短時間に多量の表流水が河川に流入

2

近年の降雨状況の変化

■ 1 時間に50ミリを超える降雨の回数

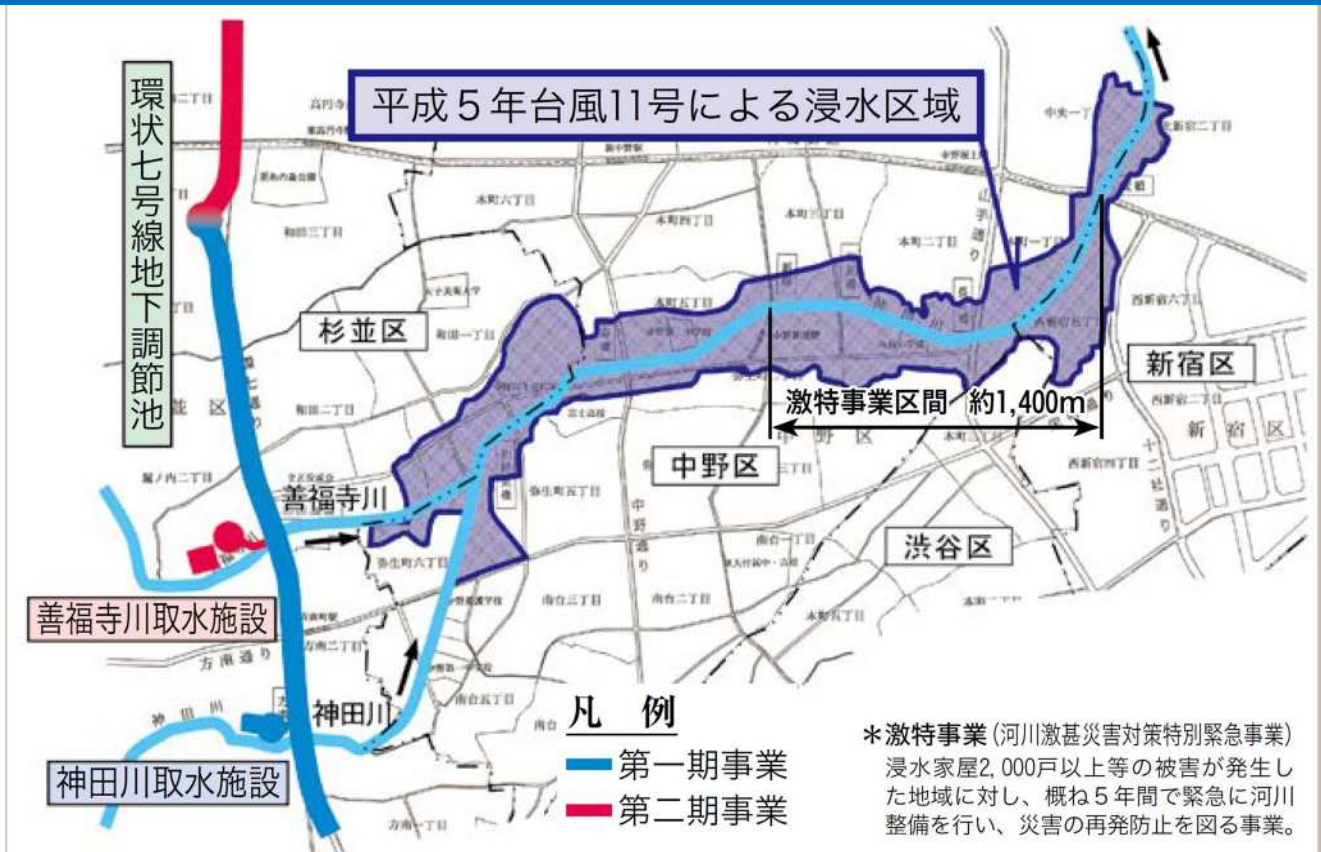


今後も、1 時間に50ミリを超える降雨（台風や雷雨性の局地的集中豪雨）の増加が予測され、水害リスクは益々高まっていく

降雨状況の変化への対応が急務

3

過去の水害記録



神田川・環状七号線地下調節池パンフレットより

4

河川整備の考え方

目標：年超過確率1/20規模※の降雨に対し、河川からの溢水を防止（※区部では時間75mm）

整備方針：時間50mm降雨まで

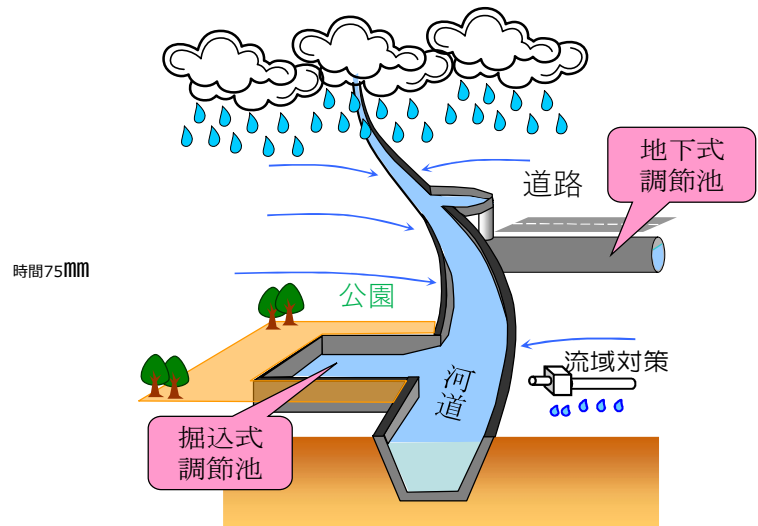
▶ 河道整備で対応

時間50mmを超える降雨

▶ 調節池及び流域対策で対応

流域対策	時間10mm
調節池整備	時間15mm
河道整備	時間50mm

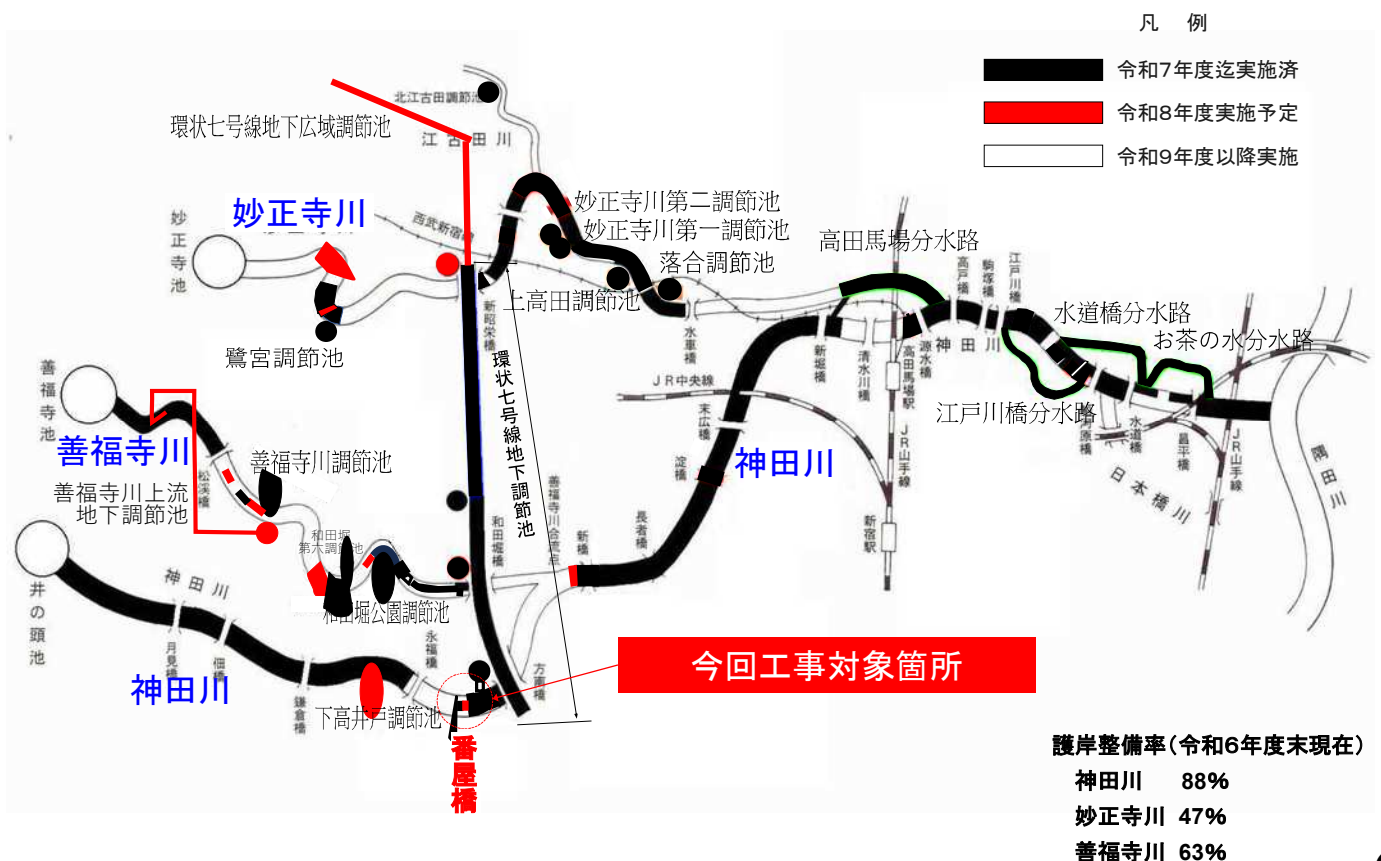
整備分担



整備イメージ

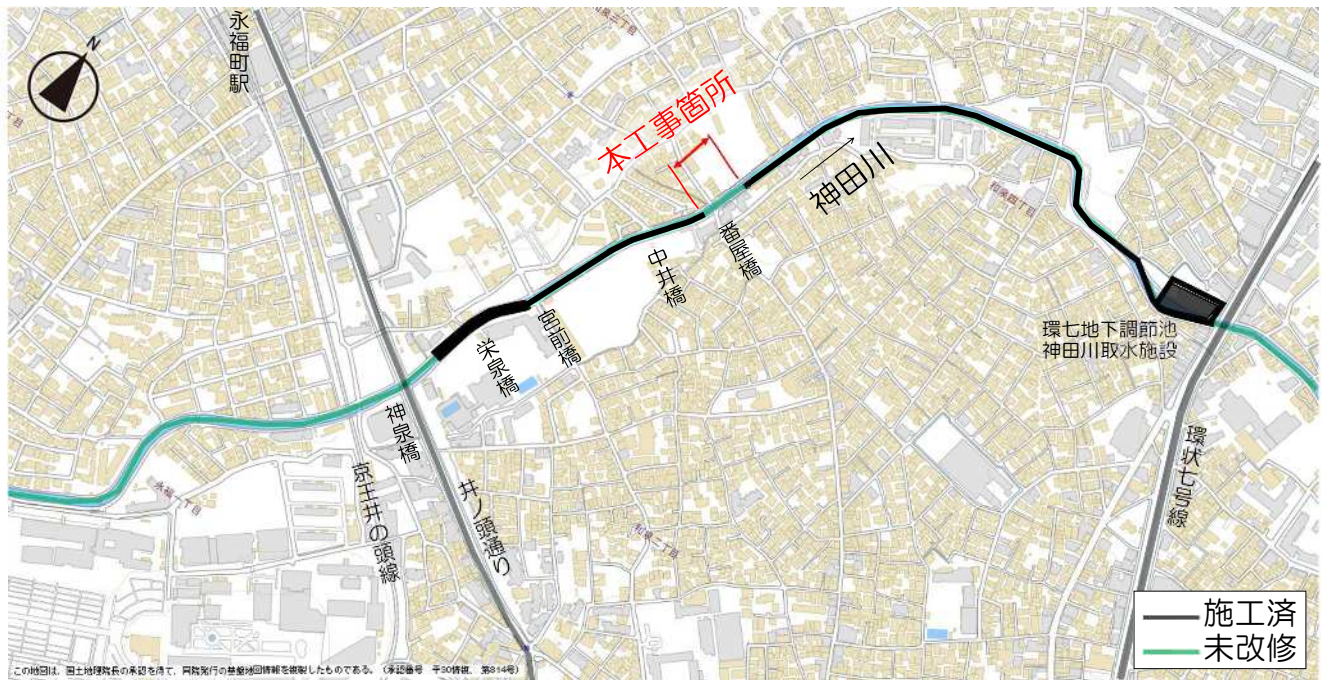
5

神田川流域の整備状況



6

神田川(環状七号線上流区間)の整備



7

今回の工事範囲



出典：地理院地図ウェブサイト

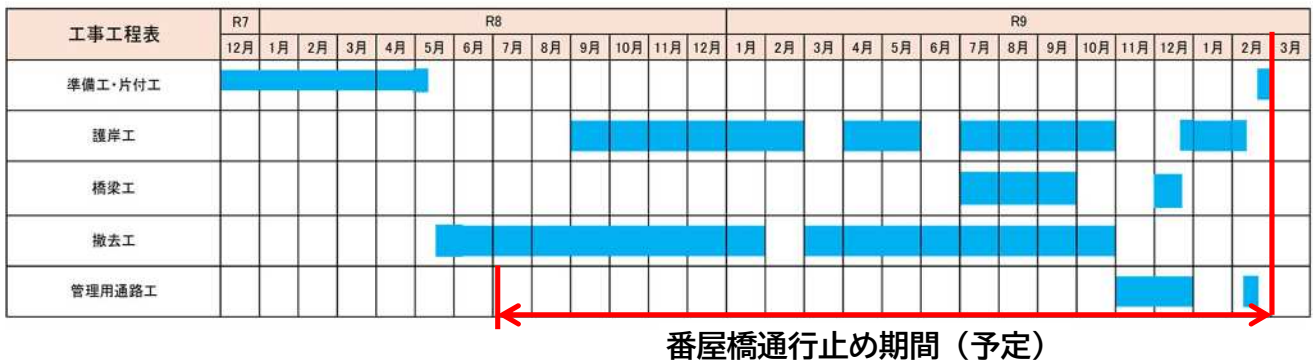
8

作業時間および工事期間

- ・作業時間 午前 8 : 00 から 午後 6 : 00
- ・工事期間 令和8年4月から令和10年2月下旬まで（予定）

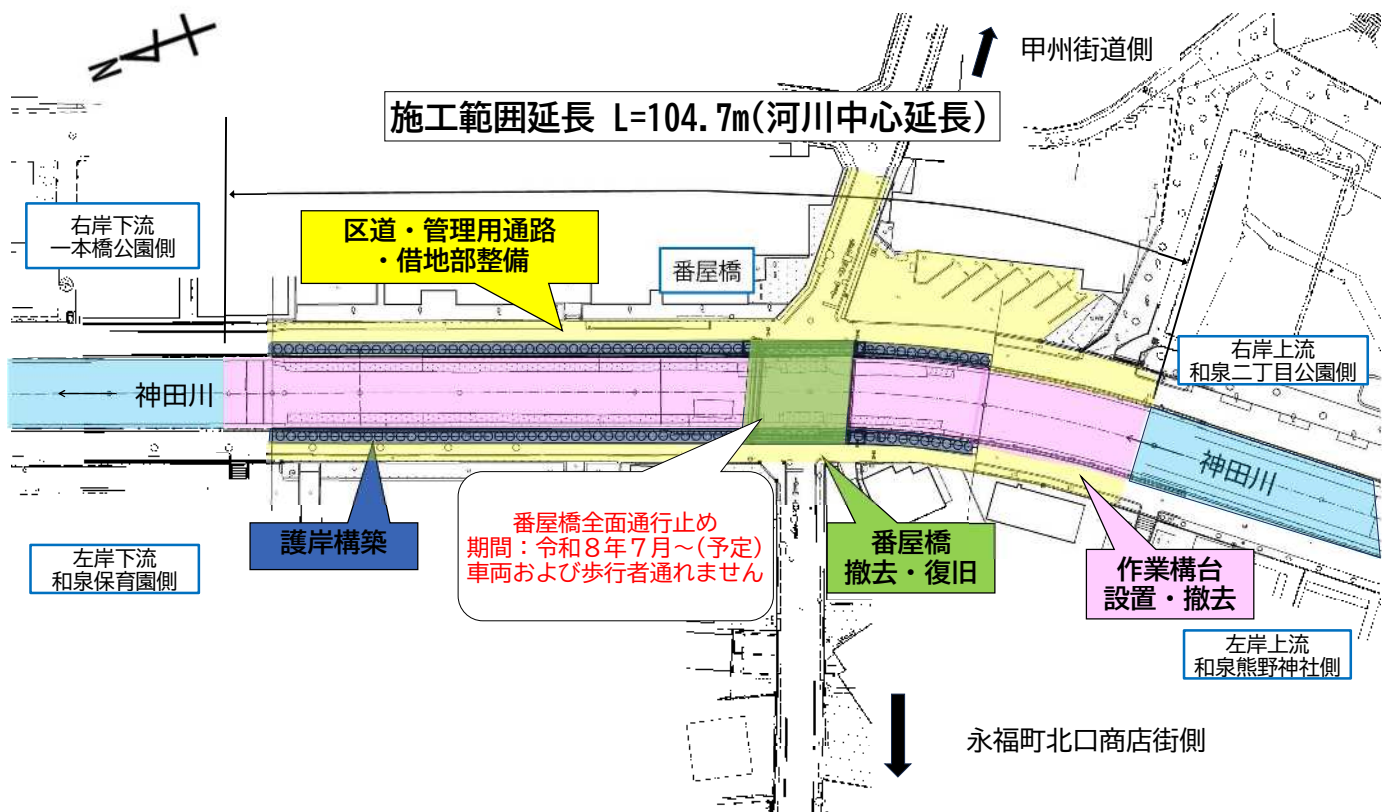
※土曜・日曜日・祝日は原則作業を行いません。

全体工程表（予定）



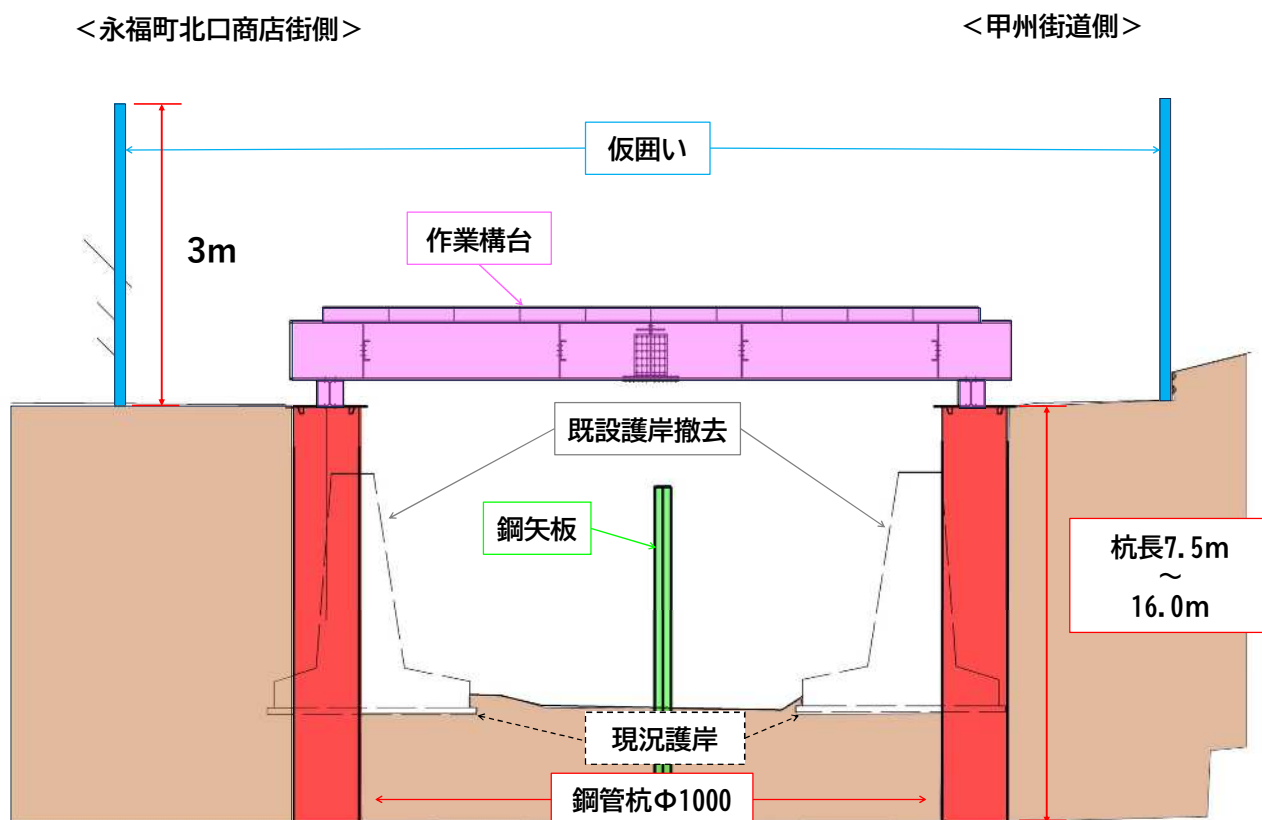
9

全体平面図



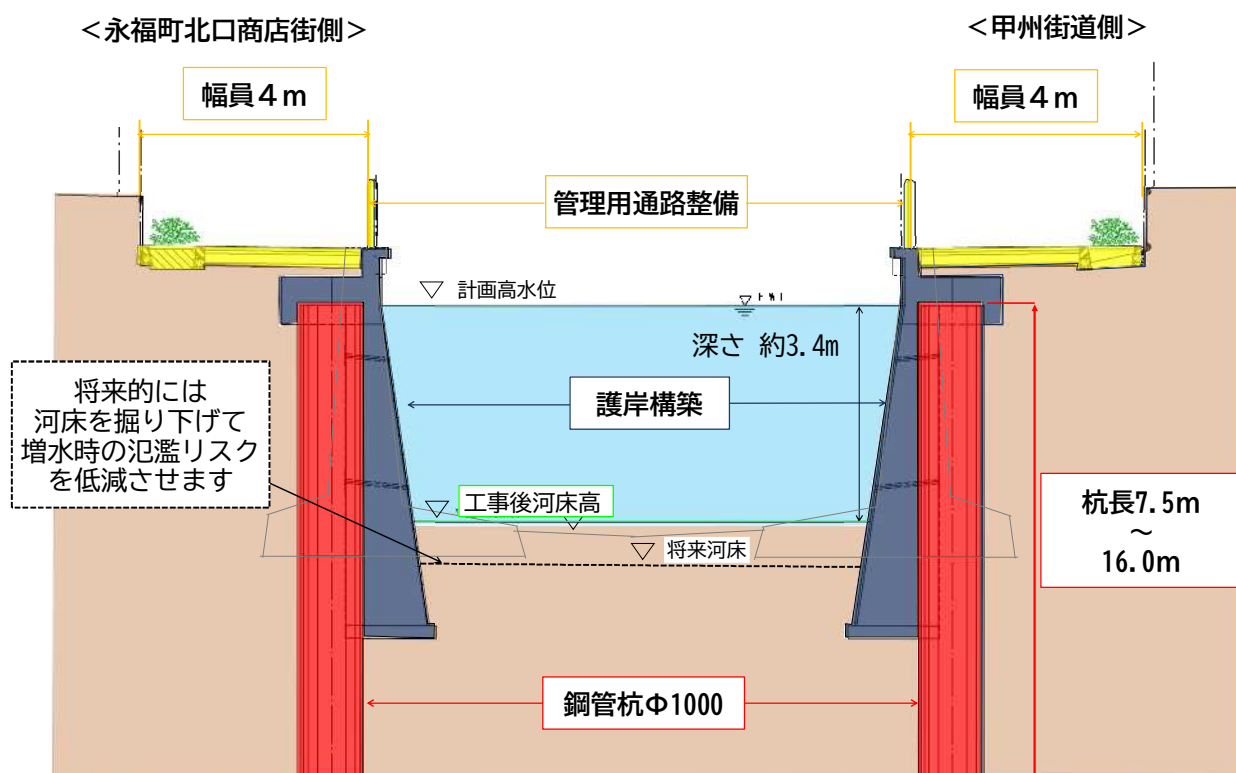
10

標準断面図（工事中）



11

標準断面図（工事完了後）



12

工事車両走行ルート



大型工事車両台数

平均5台/日(トレーラー:最大4台/日)

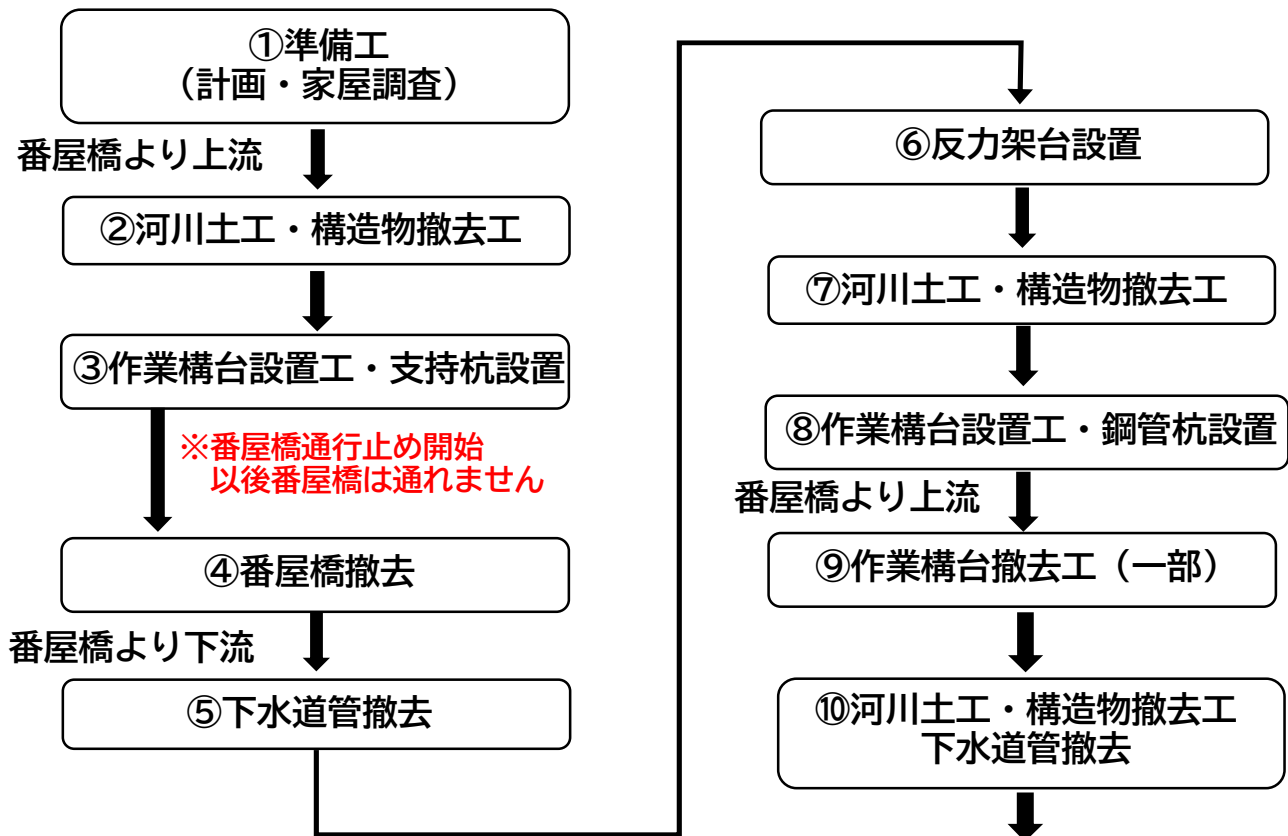
【繁忙期(令和8年9月～令和9年10月)】

平均10台/日(最大20台/日)

大型クレーン搬入等の特に大きな車両は、
早朝(午前5時～6時ごろ)に搬入し、
夜間(午後9時～10時ごろ)に搬出を行う場合があります

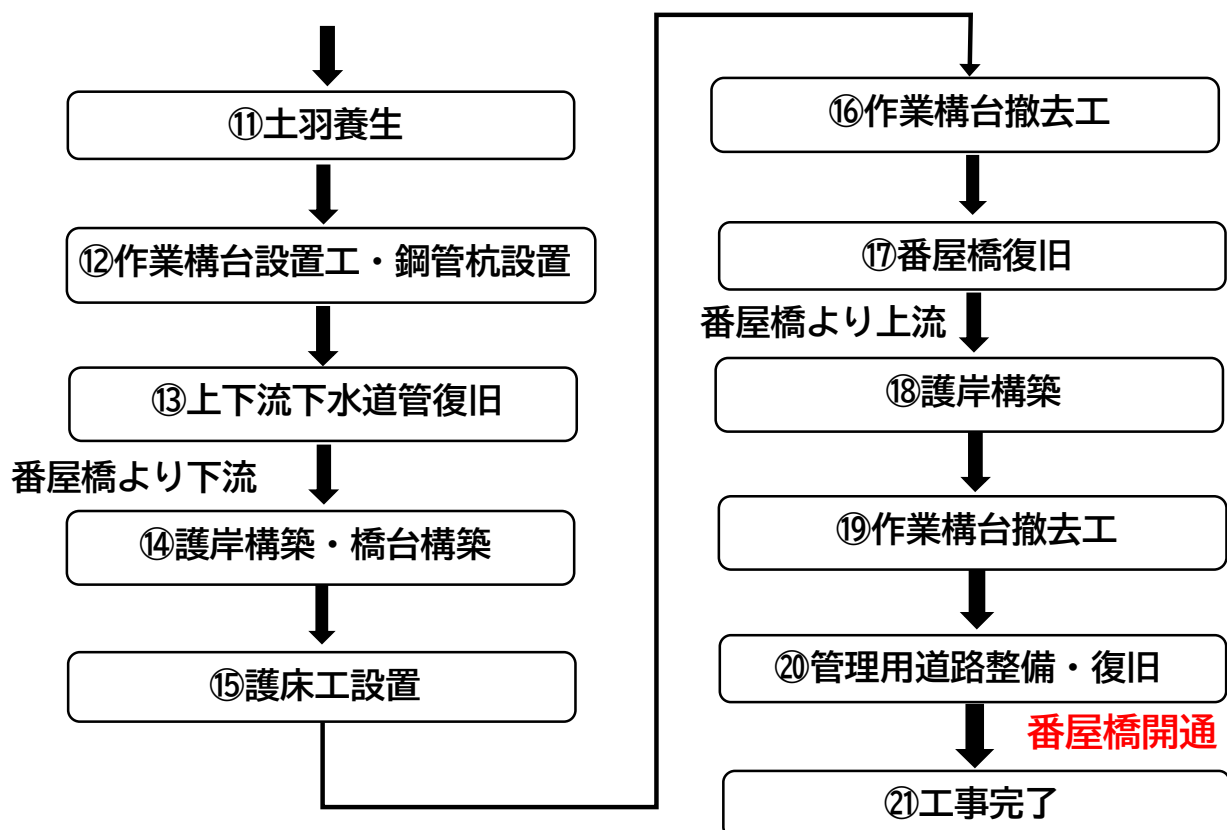
出典：地理院地図ウェブサイト

施工フロー



14

施工フロー



15

仮囲いについて

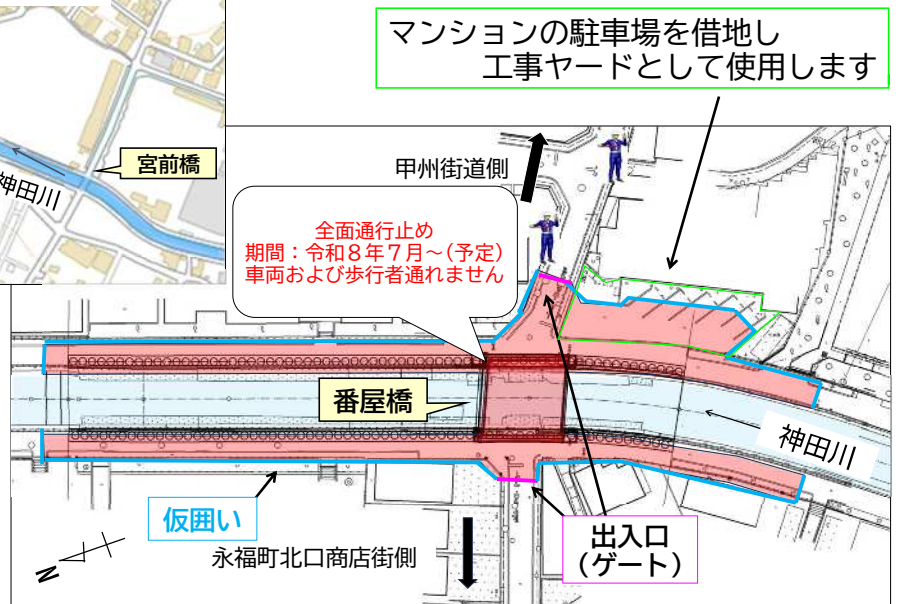
施工にあたり、現場周囲に仮囲い（右下図・青色）を設置します。

透明（クリア）タイプのご要望がありましたらお申し付けください。



出典：地理院地図ウェブサイト

〈仮囲いイメージ写真〉



16

河川土工・構造物撤去工

桜の木の剪定

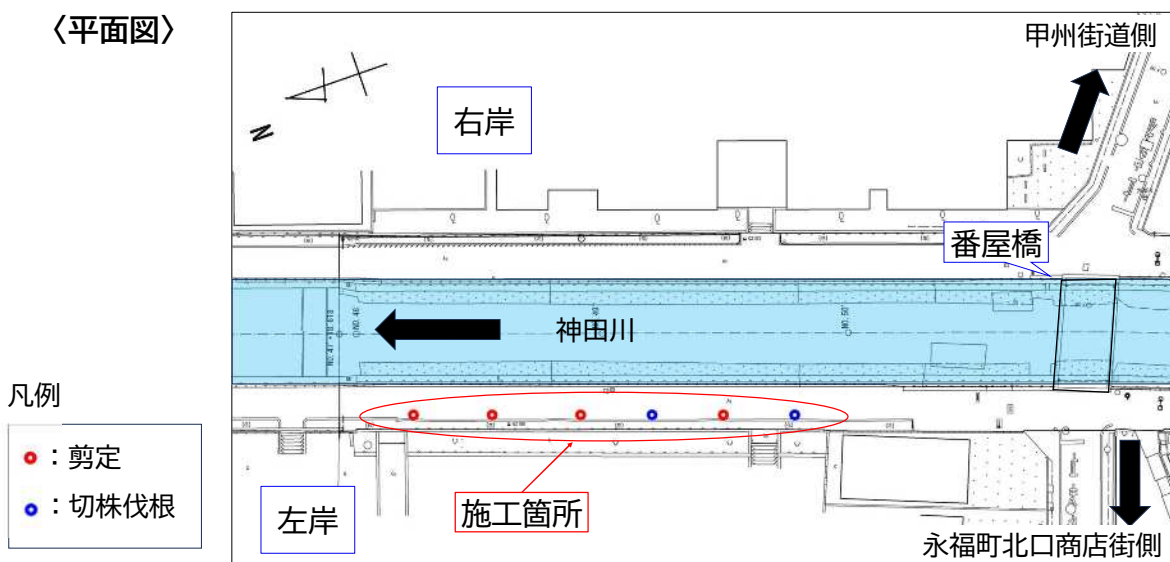
※施工フロー番号②⑦⑩

番屋橋下流左岸側の4本の桜の木について、**施工の支障となる枝**に関しては**必要最小限の剪定**を行います。剪定切り口には保護剤塗布等の措置を行います。

すでに伐採されている**切株**は**抜根**し、

管理用通路復旧時に**新たに桜の木の植樹**を行います。

〈平面図〉

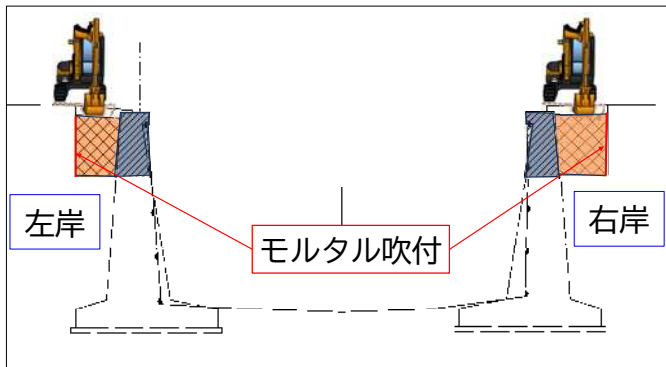


17

河川土工・構造物撤去工

※施工フロー番号②⑦⑩⑪

〈断面図〉



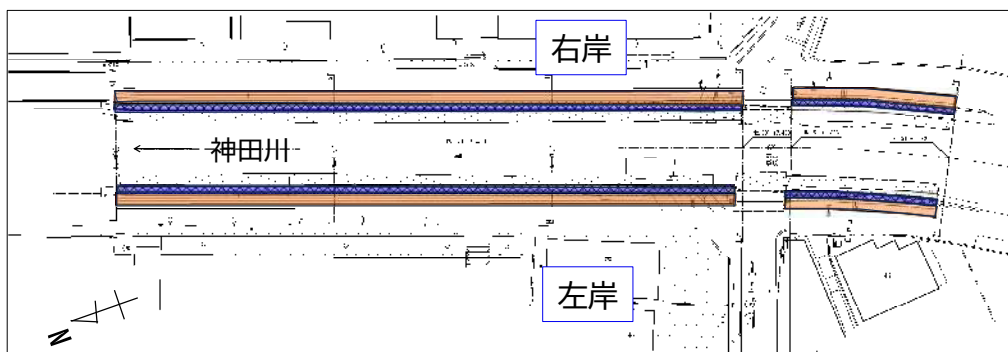
掘削・既設護岸（嵩上げ部）取壊し

鋼管杭の圧入に先立ち、

- ・掘削（**橙色**）
- ・既設護岸（嵩上げ部）取壊し（**青色**）を行います。

※取壊し作業は**低騒音・低振動型**の機械を採用
掘削法面はモルタル吹付を行います。

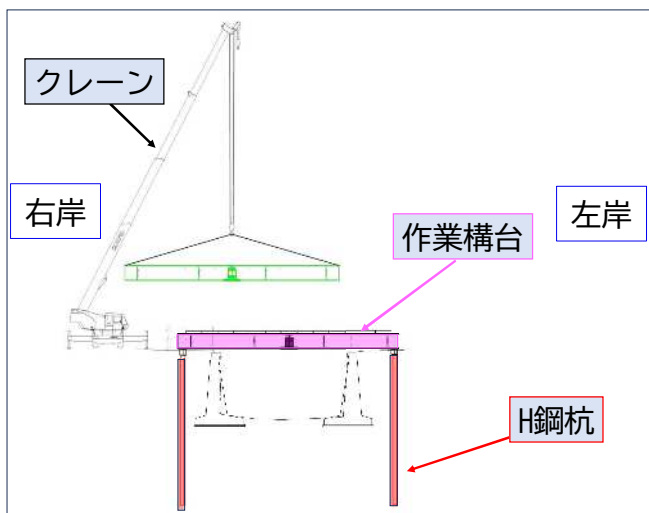
〈平面図〉



18

作業構台設置工

〈断面図〉



作業構台設置 ※施工フロー番号③⑧⑫

残置されたH鋼杭（**赤色**）を継ぎ足し、
その上に作業構台（**ピンク色**）を設置します。

〈施工イメージ写真〉

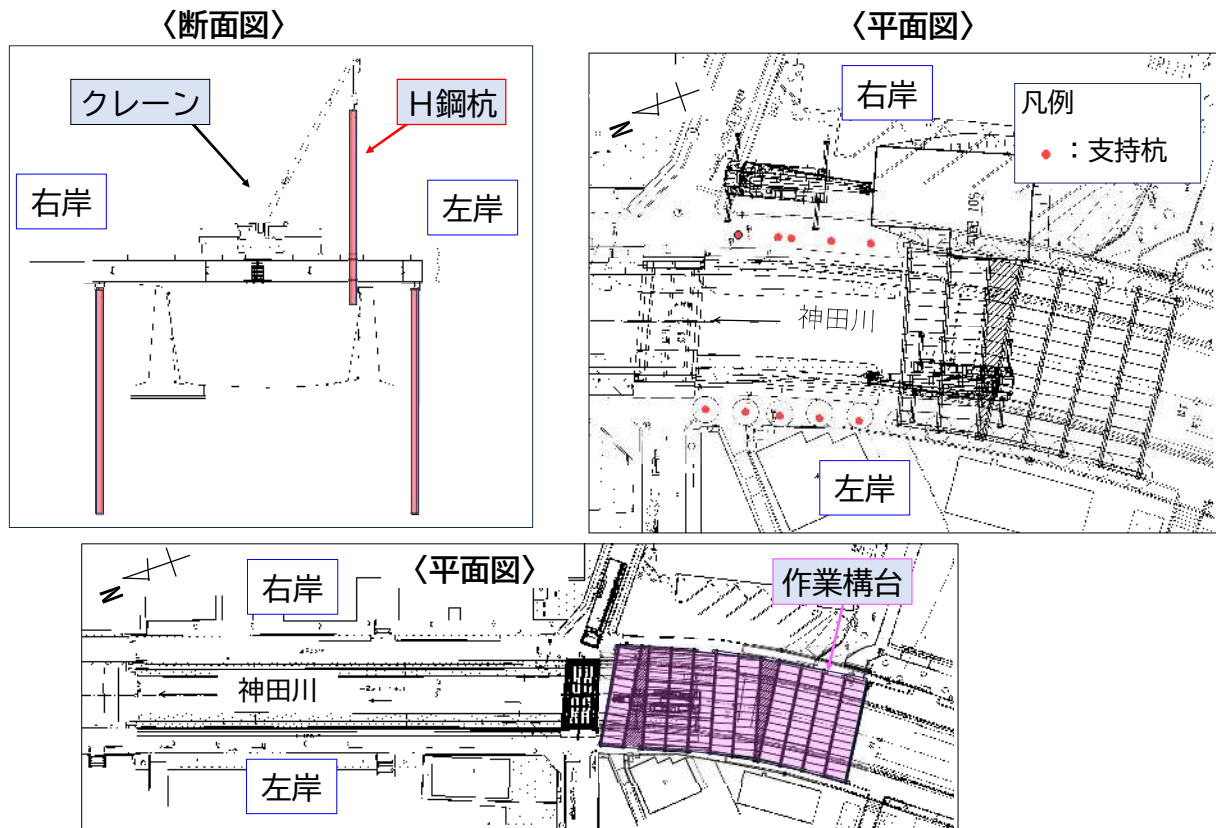


19

支持杭設置・作業構台設置

支持杭を設置し、作業構台を延伸します。

※施工フロー番号③



20

番屋橋撤去

番屋橋通行止め・撤去

※施工フロー番号④

鋼管杭の圧入前に、番屋橋の撤去が必要となります。
鋼管杭の圧入後に、新しい番屋橋を設置します。

新しい番屋橋の幅員は現在より広くなります。
番屋橋の撤去に伴い番屋橋は通行止めとなります。

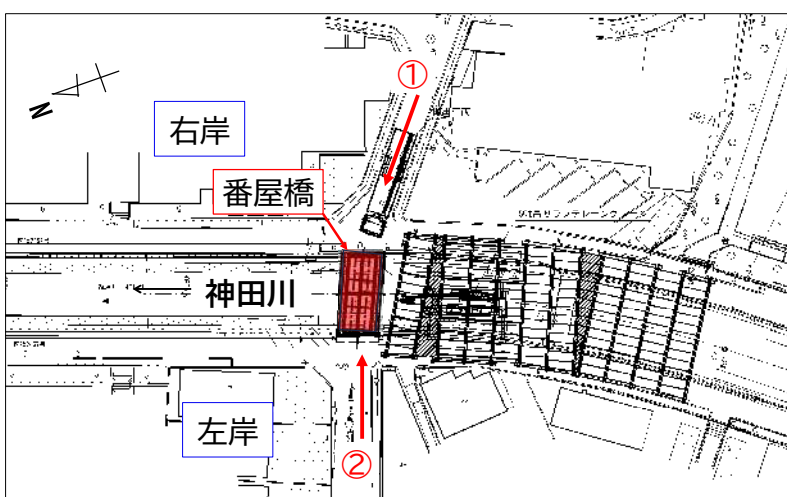
期間：令和8年7月頃～令和10年2月(予定)

※通行止め前には予告看板・チラシ等にてお知らせ致します。

〈現況写真（①右岸側より撮影）〉



〈現況写真（②左岸側より撮影）〉



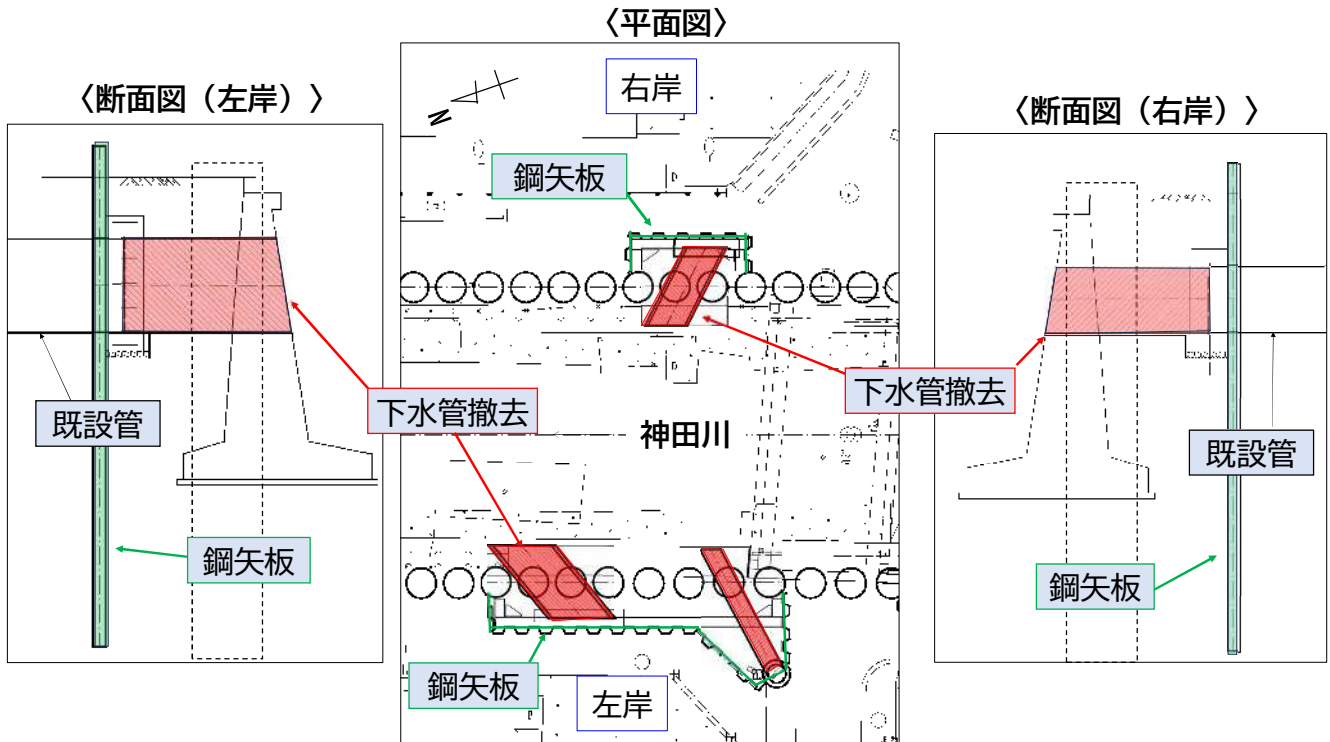
21

下水道管仮吐口設置

下水管仮吐口設置

※施工フロー番号⑤⑩

鋼管杭の圧入前に、既設下水管を一時撤去し仮の吐口設置を行います。



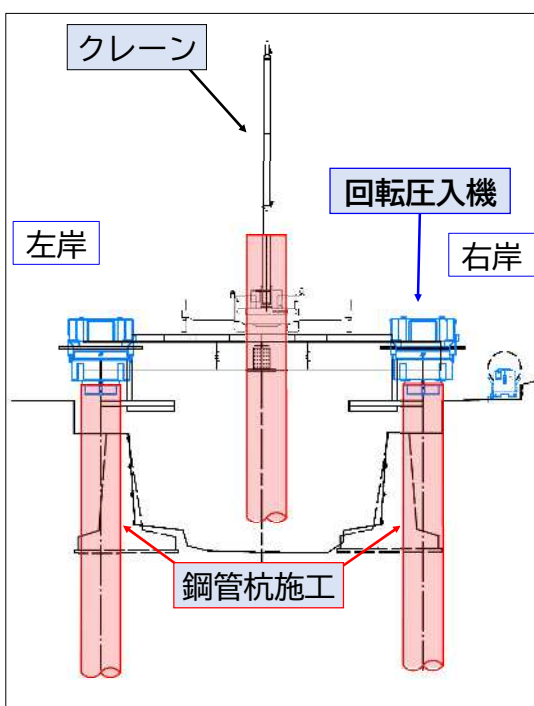
22

鋼管杭設置

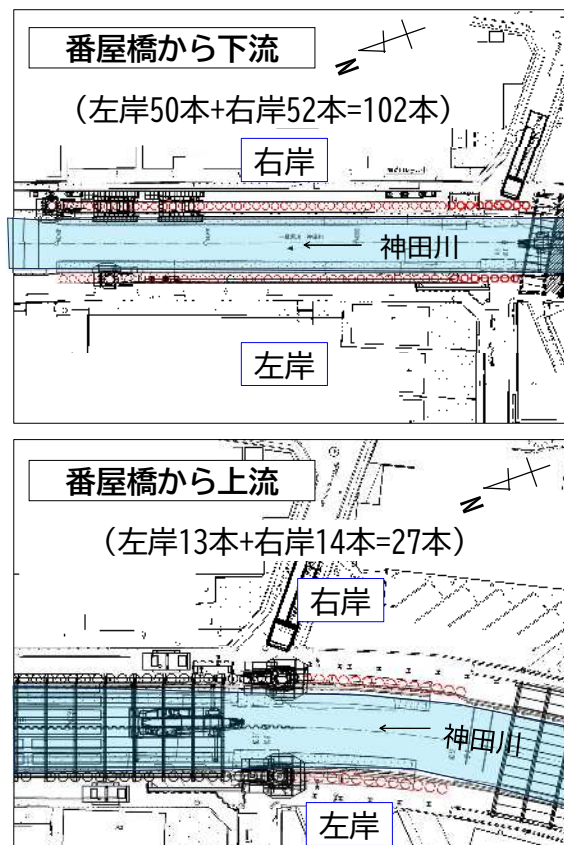
鋼管杭圧入

鋼管杭（赤色）を回転圧入機により回転させながら土中に埋めていきます。

〈断面図〉



〈平面図〉 ※施工フロー番号⑧⑫



23

鋼管杭施工状況イメージ

※施工フロー番号⑧⑫



24

締切鋼矢板圧入

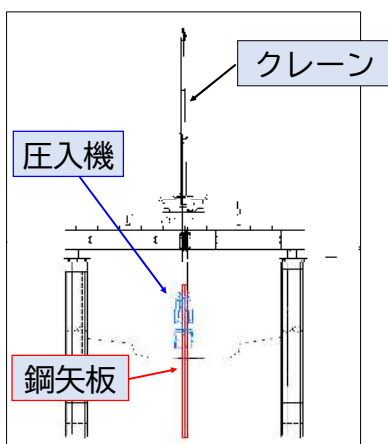
締切鋼矢板圧入

※施工フロー番号⑧⑫

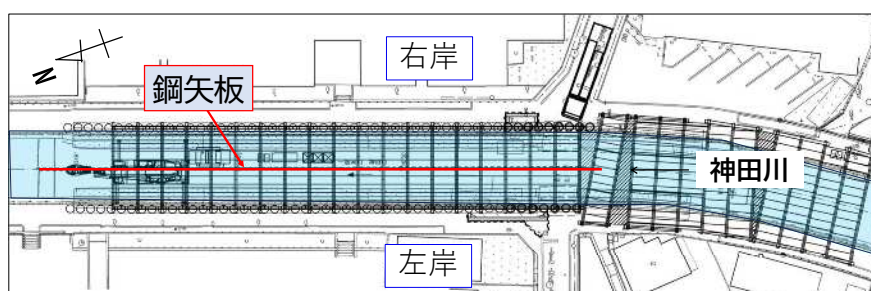
護岸撤去および河床掘削のため、河川の中心に鋼矢板（赤色）を圧入します。

〈断面図〉

〈施工イメージ写真〉



〈平面図〉



25

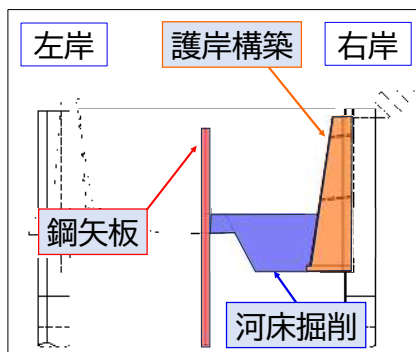
護岸構築

護岸構築

※施工フロー番号⑭⑮

鋼管杭を設置した後、河川片側を締め切り、河床を護岸下面まで掘削します。
その後、コンクリートを打設し、護岸を構築します。

〈断面図〉



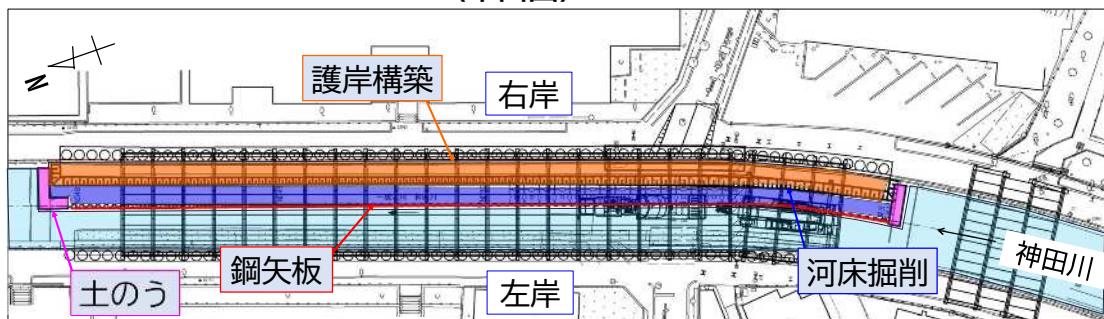
〈施工イメージ（河床掘削）〉



〈施工イメージ（護岸構築）〉



〈平面図〉



26

番屋橋復旧

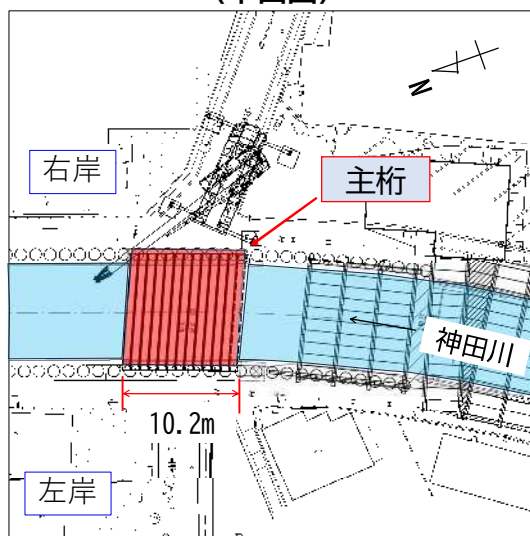
番屋橋復旧

※施工フロー番号⑰

主桁を架設した後、橋面工を行い、開通します。

〈施工イメージ写真〉

〈平面図〉

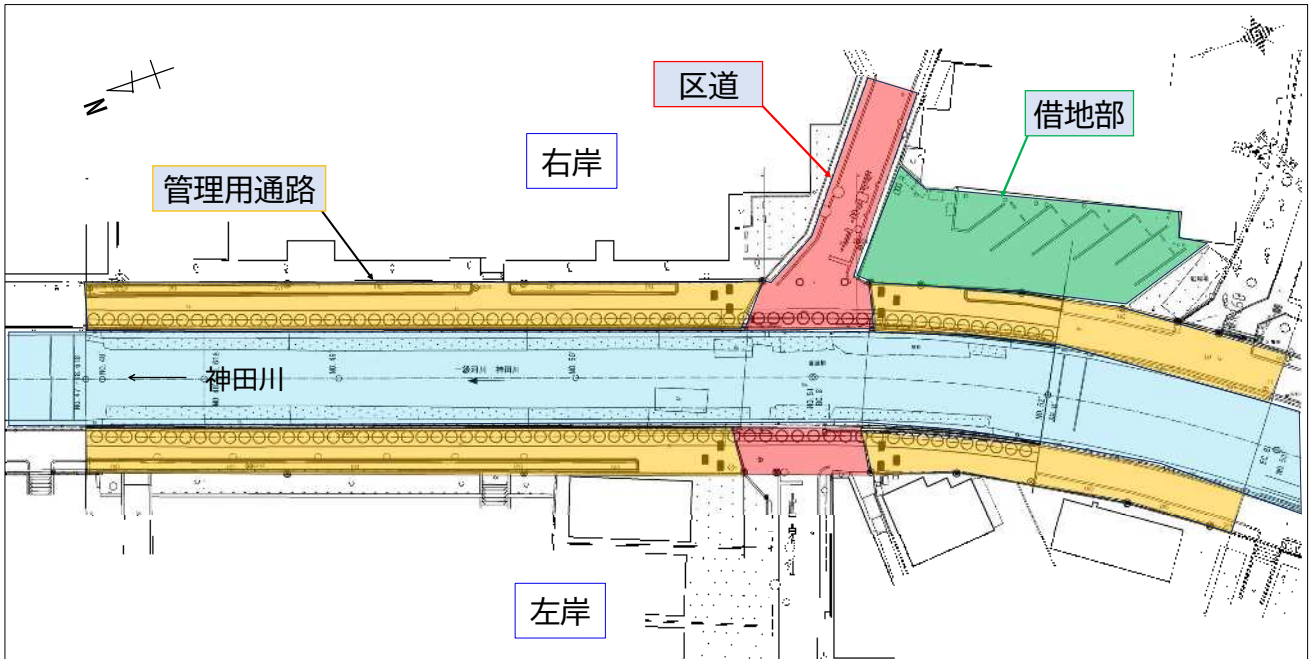


27

管理用通路整備・復旧

管理用通路、区道、借地部の復旧を行います。

〈平面図〉



28

工事に伴う環境への配慮

- ①場内待機車両・作業時以外のクレーンはエンジンを止めて**アイドリングストップ**を行います。
- ②使用重機は**低騒音型**、**振動型**を使用します。
- ③騒音の大きい機械は**防音シート**等で**養生**を行います。
- ④軽油の抜き取り検査を行い、**不正軽油の混入防止**を行います。
- ⑤当工事に伴って発生する地下水位の水位変化を把握するために、観測井戸にて、**水位確認**し施工の影響がないか確認します。



29

工事に伴う環境調査

当工事の施工に伴う、環境への影響を把握するための調査を行います。

○井戸分布調査

→調査区域内に分布する井戸を把握するために調査します。

(調査方法)

井戸を所有している方に調査会社がお伺いし、
用途等の聞き取り、写真撮影等をさせていただきます。

【調査会社】
東洋技建 株式会社
株式会社 中央クリエイト

〈調査員写真〉



○地下水調査

→当工事に伴って発生する地下水の水位変化を把握するために調査します。

(調査方法)

工事現場周辺に観測用の井戸を6ヶ所設置し、
水位を継続的に調査いたします。

30

○振動・騒音調査

→当工事に伴って発生する振動・騒音を調査し、定められた基準値内か
確認します。

(調査方法、頻度)

振動計・騒音計を用いて測定します。調査頻度は工事期間中に定めら
れた工種毎（掘削工、埋戻し工、構造物取壊し工、鋼管杭圧入工、
アースオーガ併用圧入工、鋼矢板引抜工）に調査いたします。

○地盤変形調査

→当工事に伴って発生する地盤変形の大きさを把握するため、沈下量と
変位量を調査します。

(調査方法、頻度)

高さ測量・座標測量により測定します。地盤変形調査においては、工事
前・工事中及び工事後に調査いたします。

31

お問合せ先

★神田川整備工事全般に関すること

東京都第三建設事務所 工事第二課 設計総括担当

⇒電話 03-3387-5367

★神田川整備工事（その213）その2 に関すること

東京都第三建設事務所 妙正寺川事業センター

⇒電話 03-3228-1419

★神田川整備工事（その213）その2 の内容や施工方法等の詳細に関すること

受注者：大豊・黒部建設共同企業体

⇒電話 03-6379-5758

ご迷惑をお掛け致しますが、御理解・御協力お願い致します。